

授業科目名	保健医療と福祉	単位数	2
担当教員名	砂田 淳一郎	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	医療ソーシャルワーカー（MSW）経験のある教員が、保健医療と福祉について解説する。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概の助長を担うべきものである。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。</p> <p>(2) 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。</p> <p>(3) 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。</p> <p>(4) 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、保健医療と福祉の連携が強調されているが、とりわけ、相談援助活動においては不可分の関係にあり、入院のみならず、地域で暮らす高齢者・障害者にとって、両者は切っても切り離せない関係にある。また、昨今は不況による失業も深刻な社会問題となっており、児童も含め、低所得の無保険者に対する医療サービス提供の問題も表面化している。従来は、病院の医療ソーシャルワーカーが、保健医療サービスに対する知識を必要としていたが、現在では、地域支援に当たるすべての支援者にとって、保健医療の動向、制度の理解、さらに他職種の連携の理解は欠かせないものとなっている。この科目は、理想的には、「社会保障」履修後に学習を開始することが望ましい。なぜならば、学習の要となる医療保険制度は社会保障の一形態であり、制度の修正や創設の背景は、社会経済の大きな流れの中で、社会保障制度全体の枠組みとして、考える必要があるからである。しかし、各論から理解し総論に至るアプローチもあるので、その場合は、社会保障制度全体を常に念頭に置きながら学習を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会と保健医療の動向① 医療の定義、病者の理解、家族の理解、患者の権利 等</p> <p>第2回：現代社会と保健医療の動向② 疾病構造の変化、医療施設から在宅医療へ 等</p> <p>第3回：現代社会と保険医療の動向③ 保健医療における福祉的課題 等</p> <p>第4回：保健医療の政策・制度の理解① 保健医療制度の体系、医療法の概要、医療提供施設 等</p> <p>第5回：保健医療の政策・制度の理解② 医療費の保障、社会保険制度 等</p> <p>第6回：保健医療の政策・制度の理解③ その他の政策・制度 等</p> <p>第7回：保健医療に係る倫理の理解① 医療倫理の定義、医療倫理と倫理的課題 等</p> <p>第8回：保健医療に係る倫理の理解② 自己決定権の尊重、患者の意思決定をめぐる課題 等</p> <p>第9回：保健医療領域における専門職の役割と連携① 保健医療領域における専門職 等</p> <p>第10回：保健医療領域における専門職の役割と連携② 院内連携 等</p> <p>第11回：保健医療領域における専門職の役割と連携③ 地域医療連携、地域包括ケアシステム 等</p> <p>第12回：保健医療領域における支援の実際① 医療ソーシャルワーカーの概要 等</p> <p>第13回：保健医療領域における支援の実際② 保健医療ソーシャルワーク実践の歴史と動向 等</p> <p>第14回：保健医療領域における支援の実際③ 保健医療領域における支援の実際（事例検討）等</p>			

第15回：本講義のまとめ

定期試験

教科書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉』中央法規出版

参考文献

- (1) 厚生労働省『厚生労働白書』各年版
- (2) 厚生統計協会 厚生指標 臨時増刊『国民衛生の動向』各年版
- (3) 厚生統計協会 厚生指標 臨時増刊『国民福祉の動向』各年版
- (4) 社会保障入門編集委員会『社会保障入門』中央法規出版 各年版

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。